夕刊
二月二十三日發行
定價一ヶ月金六拾五錢　郵税共金六拾錢
廣告　一段一行金拾錢　二段一行金二拾錢　五段一行金五拾錢　同上二字詰一行金拾錢
發行所　磐城新聞社
印刷人　木村
（日曜祭日翌日休刊）

身邊小記

藤澤古實

○雜誌

自分はやや久しく本業の彫刻にかまけて、作歌することもなく過ぎた、これは甚だ寂しいことであるに違ひない。然るに近頃になつて自分のうちに潜む歌心といふやうなものが、渾然と湧くのをしばしば覺えるやうに思ふたのである。實際には未だ、さして作歌をした譯ではないが何となくちつとして居られぬやうな衝動を感するのであつた。

昨歳晩、郷里の信州へ遊んで、舊き歌友たちと親しく會ひ、話し合つたことも一つの機運であつたと思ふ。と云つて、自分は近年全然作歌を怠たつてゐた譯ではないのであつて、むしろ發表する意欲がなかつたのである。それには種々な私的な事情もある。さらに舊臘中に『いはらき』新聞社の津川公治氏等の御厚意に據つて同紙新年募集歌の選考をしたことも、確かに他のも一つ機運をひらく途であつたらうと思ふ。

さて自分は、ここに一つの新らしき短歌雜誌を發行せんとしたのである。このことは直ちに友人の島田忠夫、酒井克己氏等に計つたそこで難なく纏まつた。皆これから新しい仕事をして行かうとするのである。各々の作歌修錬を積んで行かうと云ふのである、若々しい氣分で、新らしい雜誌を生むといふことは、自分たちにとつて實に深い喜びである。感謝でもある。

斯うして、自分たちの雜誌は生れることになつたのである。外に佐々駅々、竹内敏雄氏、松林竹雄氏等が加はつて呉れることになつた。

○誌名

短歌雜誌の名をつけるのは仲々興深いことである、一面むづかしい。それを若し暇があつて考へ出すと實に切りがないのである。自分たちの雜誌に就いても種々限りなく考へて見た。同人たちも色々持ちよつたりした。『新室』『防人』『やまみづ』『くろつち』『やまびこ』『くにはら』『あをくも』『クサハラ』『新林』『あらしは』『さむら』等、實に數かぎりもない。しかし、結局『ヤマナミ』としたのである。この『ヤマナミ』は何か好いやうに思へる。

○調べ

自分は作歌の上に、つねに調べといふことを重く見てゐる。同時に、調べのない歌はいろいろの意味で感心しないのである。

『ヤマナミ』なども、新人を育てて行きたいので、斯ういふことにも非常に考へたい。新しい歌を若々しい氣持で作つて行きたいと切に思ふのである。更に何故か調べの喪失した世の歌人たちの歌に學ばないで若々しい調べの張り切つた歌を作つて行き度いと思ふのである。

『ヤマナミ』は當分發行所を、東京市外、幡ヶ谷八八五の拙居に置く。若々しい諸兄のお歌もお見せ下さることを希望する。

（二月中浣）

早起會（童謡詩）

原勝

（二）

夏のお休み
學校で
ラヂオ体操
早起會
霧が出てくる
撫子樹
先生の顔が
光つてる
裏の松山
風の音
小使さんも
やつてくる。

悼鵜沼美光君

島田忠夫

○鵜沼美光君は生前よく予と知れり。かつて一夏小名濱に過せし時、君はわが爲めによき海の友なりき。その戦死をききて悼める。

ますらをは命を擲げて戦へやよし死するとも何か惜しまむ
ますらをの君が命をたとふれば打ちて碎けし海し青玉
上海に戦ひ死にし君をしのばな海戀びておのれ兵となりにき
まめまめしく立ち居振舞ふ君なりし青年とのみ吾ら呼びにき

新聞に載れる寫眞を切り抜きてわれは線香なたてまつらむ

學藝消息

『どん栗』を創めるに就て。

拝啓　貝殻細工のやうな梅の花がちらほら咲きはじめる頃となりました。さて此の陽春にむかひなんとなく童心の動く私たちは、児童藝術の正しい興隆をめざして此たび童謡童話誌『どん栗』を創めることになりました。吾々と極まつた、併し親類集合せで若様はと聽くと奥の離れから相談で、其日は暮てれ庫敷で能く眠つてお出なり稱されてゐる一群はあ夜に入つて居ります、今晩くまで童心に土の匂ひを さると云ふ、武平何うも築が一ケ所壊れてゐるところかよはせて飽に永らくの と云ふ譯にならぬから政江土へ戻るのが氣が進まないへの掛合は明日にすると云から、利太夫の云ふが儘にふ事に成つて其夜は各々引て波彌を盗み去つたに相違聞、精進を積げてまゐり酒飯の馳走に預り暫時時刻て此の屋敷を聽き合せ様』と仲間ました。どうぞ好き児童を過ごしました』武『大きな、何にしても裏續きの取りました、跡に殘つた松手前は……』利『マア好いを走らす以ての外なる大騒藝術の仕事が出來ますや陸武平が 武『若様は如何致したものでございませう』 ろう、皆様の御聲援を待望いたします右まで。二月廣『波彌殿は矢張り築土へ

時代警語

○薄命は愚蠢に驕る門戸也……（西諺）

チョンソン曰く『世上の人、不平を鳴らし怨言を吐くものは皆な公正に非ず、我れ未だ功勞ある人の一世に遺棄せらるるを見たる事なし。凡そ事を爲すに利達を得ずして敗滅するものは皆その人の過失にして自ら敗れるものなり』と……

俠艶女長兵衛

東京　斯波南夏（魚崎潮歌）

（一四一）

跡部の屋敷に寄つた親類は、多田利太夫を始め赤坂の夏目七右衛門、本所の木村與右衛門、四谷の大久保勇次郎の重立つた人々夫れに松蔭武平の加はつて居ることは勿論でございます、額を集めて相談の結果は松蔭が段々取調べたところでは飯岡右膳と後家の政とは、不義を重ねて居ると判居るのでございます、多田せ、サア來いと許り待つて利太夫と連れ立つて三番町は飯岡右膳と手筈をしめし合せ、サア來いと許り待つて敷へ入つたのだらう能く尋ねて見ろ』女『イエ〳〵便所を始め座敷〳〵を改めましたが何うしてもお出があれぬ家だに依つて便所へで行き、戸迷ひして外の座も行き、戸迷ひして外の座敷へ入つたのだらう能く尋ねて見ろ』女『イエ〳〵便所を始め座敷〳〵を改めました』利『ええッ』利太夫も驚けば武平も醉つた酒が醒めてしまふ位、大騒ぎとなり座敷中總出で詰所を探し廻つたが何うしても波彌の姿を發見することが出來ません、のみならず裏手の齊藤藤十郎と云ふに旗本との地境にある、柴の垣根を見出し、斯くと註進致します 利『扨は曲者忍び入つて波彌を盗み去つたに相違ない、何にしても裏續きの屋敷を聽き合せ様』と仲間を走らす以ての外なる大騒

○水鳥む廢に群れつく小蝦かな　生紅樓

講談

ラヂオ
仙臺　JOHK
……二十四日〔水曜〕……
△前七、〇〇A　ラヂオ體操
△九、〇〇A　氣象通報
△九、一〇　料理献立（口替）
小林忠雄發表
日用品値段（衣料品及身廻品ゐい）
△一〇、三〇A　家庭講座（家計簿記）　大原信德
△正午A　時報
△後〇、〇五　琵琶（古賀聯隊長）中谷錦瀧
△四、〇〇A　ニュース　氣象通報　告知事項
△二、〇〇A　家庭大學講座（佛教の常識）駒澤大學教授山上曹源
△三、四〇A　氣象通報
△四、〇〇　ニュース
△四、二〇　六、〇〇A　角力中繼（春場所大角力狀況）國技館より中繼
△五、四五　今晩の番組豫告
△六、〇〇A（子供の時間）お話（綴り方が上手になるには）富原義德
△三六、〇A　英語講座（初等科）寺西武夫
△七、〇〇A　ニュース　氣象通報　告知事項　番組豫告
△七、三〇A　中部支那事情特別講座（長江流域と日本との貿易關係）外務省通商局長武富敏彦
國際ロータリ第二十七回記念祝賀會（ラヂオナイトの中より）
△八、〇〇A　長唄（越後獅子）東京會館より中繼
△八、二〇A　獨唱　平井美奈子
△八、四〇A　ラヂオドラマ（珍客）小山内薫作
△九、一〇A　歌謡曲
△九、三〇A　時報
△九、三〇C　奉天より（古賀聯隊長と光輝ある軍旗！）歩兵第〇聯隊旗手森下少尉
△九、四〇A　ニュース　氣象通報　番組豫告　積雪量
廣告

藤沼醫院
平町紺屋町電五〇七

メリヤスタビ
モリタヤ洋品店
平5丁目　電353

糸毛のヤトモノハ
春向新色入荷
百合印毛糸　一オンス　十錢
スキー印　同　十三錢
ダイヤ印　同　十五錢
ピーハイブ　同　十六錢
ホワイト　同
ヒーザー　同　十九錢
田町　ハシモトヤ糸店

夜診
胃腸　内科　十二指腸虫病　専門
極毒　淋病　性病　皮膚病　婦人病　専門
内科　外科　産婦科
松村醫院
（平南町電話一〇七番）
療間

蜂ブドー酒
ともすれば
胃腸を害し易い秋です　必ず召上れ
毎食前　蜂の一杯を！　一杯よく胃液の分泌を促して消化を助け　絶大なる殺菌力と相俟つて　健胃整腸の効を遺憾なく發揮いたします
美味逸薬……蜂ブドー酒
近藤商店　兵衛商店

しん病　永らく病む人の福音
こしけ
（天下の名湯別府温泉で出來た　（無効返金責任藥）
登録商標　ヒノデ病研
全國知名新聞雜誌推奨（朝日、東京日日、大阪毎日、富士、講談倶樂部、主婦之友廣告乞御參照）
右は岩里家古來より家傳秘法藥にして男女血ウミ慢性淋病コシケ消渇の痛みは不思議に止り連服すると絶對胃腸障害なき名藥であります。尚ほ此の藥は責任速効藥で二日内服して効無き時は殘藥引換に全部異議なく返金します、論より證據服藥した人は皆全快喜んで居られます。
慢性、惡性頑固性の人は七日以上服用して下さい
美本淋病治療書無代進呈（此の新聞名記入申込者に限）代金引換廿三錢手數料前納の事、前金申込者には送料無料送藥す。
藥價……急性用　黒箱　一週分　金三圓
……慢性、惡性用　赤箱　一週分　金五圓
平町古鍛冶町一〇
特約一手販賣　阿康藥舗
縣社の下（電話四四番）

◎内臓外科
◎外科一般
◎花柳病科
自炊の便あり
入院隨意
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齊外科醫院
看護婦募集

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先ニ（松崎ニ）
三九二タクシーヘ
（デンワ、ミクニ）

戰雲の新選良を中心に
全石城郡下に歡喜の渦
政二民一の率で定員三名を獨占し
何と目ざましいオン・パレードよ

嚴かな審判は完全に終つた。濱三郡を區域とする第三區に於て双葉の氏家氏をして唯一個の苦盃を滿喫せしめ、定員三名を石城で獨占し政民の差別こそあれ、佐藤、比佐、鈴木の三候補が轡を竝べての當選。何と目ざましきオン。パレ！ドではあるよ、今や石城の天地は選ばれた吾等の新選良を中心として文字通りの歡天喜地。物凄い熱狂の渦を捲いて居る。各當選者の得票内譯及双相昨報後の分を追加した最後の成績次の如し

當選　一九、二二九票（石城八、一四六　双葉三、四〇九　相馬七、三八）　佐藤庄太郎
當選　一六、二九六票（石城一五、一三七　双葉四〇七　相馬六二）　比佐昌平
當選　一五、七九九票（石城三、一四七　双葉一、三九七　相馬二、二九九）　鈴木辰三郎
（次點）一三、一三八票（石城一、一三七　双葉五、二六六　相馬六、八三）　氏家清

鈴木氏當選祝賀
聚樂館に同志が會同
戰捷氣分に醉ふ

難戰苦闘尚ほ克く當選の榮冠を贏ち得た鈴木辰三郎氏は今二十三日縣社子鍬倉神社に當選の奉告參拜を了し午後一時より平町聚樂館に於て開かれた同志の當選祝賀會に臨んだが右祝賀會は出席者八百名主催側の挨拶に對して鈴木氏の謙讓な謝辭あり了つて賀酒歡談萬歳三唱盛會裡に二時半散會した

本社の慰問に對する謝狀一束

119

滿洲からの
寒夜の大強行軍後に
凍つた口糧を頬張る
自長春至チチハル道中記　上
三坂村出身　關場義臣君

——何時もながら貴社の御都道を心から懷しく又嬉しく拜讀して居ります、何時も故郷の事情を御知らせ下さる皆々樣へ私も戰地の事をお知らせ致さうと何時でも考へながら忙しさに遂々失禮ばかりして申譯ありません、私達は一月三十日——ハルビンに——の十時向はんと夜——に鐵道驛を出發したのです、寒い夜でした、町の人々は北風も夜半の北風にも拘はらず驛一杯の見送り人、萬歳の聲に送られてハルビンに向つたのです、三十一日の朝長春に着し直にハルビン行き列車に乘替へんとせるも東反鐵道は支那軍に各所を爆破され列車の運行なく一日長春にて——鐵道の修繕を待ちしも——一日二日で修繕が出來るべきでなく一日一分と急惡するハルビン、仕方なく道を歩く事となり二月一日の朝、十二時半を期して出發したのです、長春よりハルビンまでは——如何にして——の道は百里餘です、之の道をかんとするには仲々容易な事でありません北風の寒夜は——肌を刺す樣——自由なに手も足も——らず口然に乘る場所はないと淋しい話で致方ないと小銃隊になり大隊本部汽車にて九十里位なるも曲り〳〵の道は百里餘です、之の道をかんとするには仲々容易な事でありません北風の寒夜は——肌を刺す樣——自由なに手も足も——らず口然に乘る場所はないと淋しい話で致方ないと小銃隊になり大隊本部の事にて飛立つ程喜こんだ五時だつた、私は機關銃にて私達には馬五匹居ります、宿に着いたと一安心すればそれ馬だ、飯をたけば寝る時は何時も十時過ぎです、次は四時出發にて——三時頃起床——を食つて大急ぎで飯——てハルビン驛に行き露亞の電話を借りて長春にかけて見た時今長春を出發した列車ありと聞いて又出發、一日中重い背嚢に重い防寒靴をするびつて十幾日か歩きハルハと云ふ處に着いたのは薄暗くなつて